

目的 人間の行動とパーソナリティとの関係は心理学における基本的な研究課題である。被服心理学においても、被服に関する人間行動とパーソナリティとの関係は重要な課題であり、実証的研究の積み重ねが必要である。ここではパーソナリティの一側面である社会心理的特性をとりあげ、これが二、三の被服行動とどのように関連するかを検討した。

方法 調査は本学家政科、国文科の学生150名を被験者として質問紙を用いて集団実施した。被服行動測定尺度は、おしゃれ志向、ブランド志向、フェミニンな服装、服装規範、慎み深い服装、仲間に同調した服装、個性的な服装の下位尺度から構成され、それぞれの下位尺度は2~18の意見項目からなっている。各意見項目は5段階評定とし、それぞれの下位尺度を構成する意見項目への各被験者の反応得点の合計点をその被験者の下位尺度の得点とした。これを外的基準変数とし、説明変数には鈴木裕久が作成した社会心理的尺度(12アイテム)をそのまま用い、数量化I類、II類によって分析した。

結果 おしゃれ志向行動の場合、レンジの最も大きい要因は「好奇心」であり、好奇心の強い者ほどおしゃれ志向であることがわかった。このほか、レンジの大きい要因は、女性度、同調性、不良志向、心理的センシティブティ、自己実現欲求であり、女性度以外の要因では、いずれもそれぞれの特性の強い者ほどおしゃれ志向である傾向が示された。なお、この分析の重相関係数は0.589であった。その他の下位尺度を数量化II類によって分析したところ、0.470から0.565の相関比が得られ、この社会心理的尺度は被服行動の説明変数として有効であることがわかった。